

オンラインズパーション制度、「廃止」から「転存続へ」 昨年度の決算審査の中で市が方針転換を説明

14日から3日間行われた総務常任委員会議審査について、一回目の報告をします。

財務部関係では庁舎管理をめぐる問題をとりあげました。ガス水道庁舎新築に伴って来年度実施する庁舎再編、各課配置計画についてとり上げ、「市民サービスを向上させる視点で再編、各課配置を考えることが重要だ。新型コロナウイルスなど感染症対策についても考慮したものにすべきで、最終決定の前に議会などの意見をよく聞く」よう求めました。

総務管理部関係ではまず、人事・給与と管理費で質問しました。

職員の出退勤の確認、超過勤務実態を正確につかむ重要性、新型コロナウイルスを経験しての新しい働き方などについて

とり上げました。

出退勤の確認はタイムカードを使っておらず、基本的には所属する課の幹部が確認しているとのことでしたが、職員の出勤時間を厳正に把握するためにも、「超過勤務実態を正確につかむためにパソコンのシャットダウンの時間との整合性をチェックすべきではないか」などと訴えました。また、「新型コロナウイルスの感染症が出てくる中で、今後は自宅で仕事することも想定しなければならぬ。そういうなかでどう働いてもらうかを検討すべきだ」と質問しました。担当課長、部長は検討していくと答えました。

ホームページ改善、障害者福祉計画でも明記へ

ついで広報事業です。高齢者や障がい者など誰もが支障なくホームページを見られるようにという立場で、上越市ウェブアクセシビリティ方針をわかりやすく解説したものをホームページでもアップすべきだということ、この方針にもとづくホームページの内容のチェックのやり方と結果の説明、そして障害者福祉計画での明記などを求めました。

「ウェブアクセシビリティ」とは、「高齢者や障害者など自身の機能に制約のある人でも、年齢的・身体的条件に関わらず、ウェブで提供されている情報にアクセスし利用できること」を意味します。

広報対

話 課長



【ツルニンジン】キキョウ科の蔓性多年草。漢字で「蔓人参」と書きます。山麓や平地の林の中に生えています。花期は8月～10月。花は釣鐘状で下向き、外側は白く内側は部分的に赤紫色に色づきます。根は朝鮮ニンジンと同じ薬効があるとか。花言葉は「感謝」「誠実」「執着」。

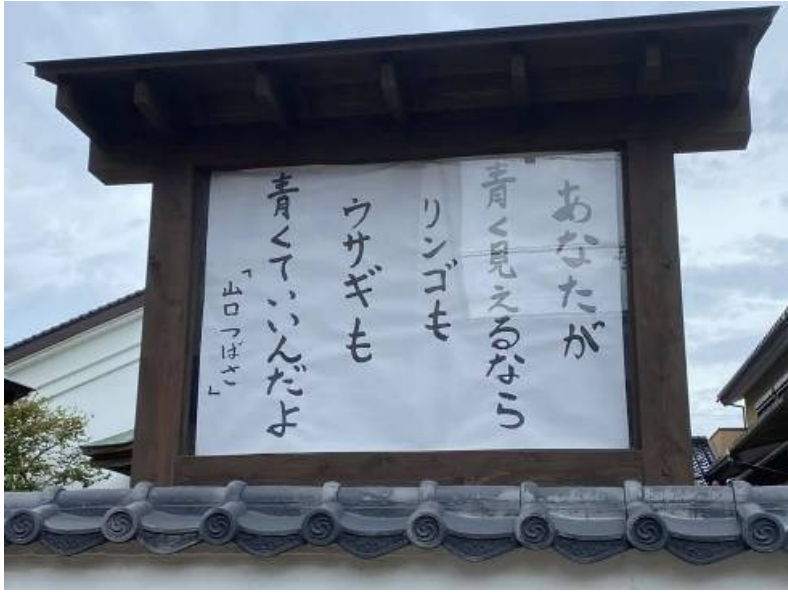
き検討を進めていくと答えました。また総務管理部長は、「障害者福祉計画は今年が改訂なので、障がい者の皆さんが使いやすいように反映させていきたい」と答えました。

行政デジタル化は慎重に

情報システム事業では、上越市が行政のデジタル化の関する基本的な方針、計画を持たない状況なかで次々とRPA導入などをすすめていることに懸念を表明、速やかに計画を立てるべきだと訴えました。総務管理部長はすでに計画づくりに向けて動き始めたことと答えました。

私は、存続は前から訴えてきたことで賛成だが、もっと早くこの「変更」を議会などに示すべきだったとのべました。

RPAとは、パソコン上でのロボットのことを意味し、処理手順を登録するだけで、単純な事務作業を自動化し、業務の効率化、スピードアップ、コスト削減を実現させようというものです。



直江津は三八市の通りに面した聴信寺の掲示板、張り紙が新しくなりました。「あなたが青く見えるならリンゴもウサギも青くていいんだよ」の漫画家の山口つばさの言葉だそうです、いい言葉ですね。

はしづめ法一の活動レポート

No.1977 2020.9.20
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見である記」はこちら

春よ来い 第六二四回 八幡社のお地蔵様

私たちが住んでいる上越にはいろいろな宝物があります。大島区大島の八幡社にあるお地蔵様もそのひとつです。

このお地蔵様は頭部だけしかありませんが、やはり病を終息させてくれるといえます。いまの新型コロナウイルス感染症対策でも力になってもらえるかも知れません。

お地蔵様のことを知ったのは、九月の最初の日曜日でした。この日、私は、「大島やすらぎの森散策ウォーク」に参加し、初めてお地蔵様があるところを訪ね、お参りしてきました。

いうまでもなく八幡社は神社で、現在は「やすらぎの森」の上の方、須巻山（標高三一六メートル）にあります。昔は大島集落内の、もっと低いところにあったそうです。

この日は二十数人で登りました。よく晴れていて、米山や尾神岳、魚沼の越後三山などがはっきりと見えました。青空の広がるなかで見えた山々はとても素敵でした。棚岡のTさんによると、北側の木々を切れば、刈羽黒姫山も、さらには弥彦山も望めるそうです。

八幡社そのものは、幅一・八メートル、奥行二・七メートル、高さが一・八メートルの小さな木造の建物で、お地蔵様の頭部は奥まったところに安置されていました。

眺めを堪能したところで、大島町内会の前町内会長の江口鎮夫さんがお地蔵様の頭部を手のひらに載せて外に持ち出し、小さなハンドマイクを使って、頭部だけになっ

たいわれなどを語ってくださっていました。

「あのー、八幡社の由来につきましては、諸説があるようでございますけれども、大島には村松さんという大地主がございますけれども、当初は長野県の方から隣の（安塚の）行野集落に移住されたそうです。そのころ疫病がはやりまして、それでまた大島の方へ移住されたという話です。」

もんだ、村松家のもんだとかなんだとかで、行野の方からすれば、「おらの守り神だ」ということで、いろいろ話し合いがつかなくて、結局、取り合いをしているうちに、胴体の方は行野集落にございます。お地蔵様の頭部も当初、大島神社の方に八幡社として祭られたところがございますけれども、いろいろのいわくのなかでしたことから、行野集落も見える、また大島も眼下に見えるところに移されました」

江口さんの「ございますけれども」を多用した説明を聴きながら、左の手のひらのなかのお地蔵様の頭部を見ると、思っていた以上に小さなものでした。あとで測ってもらったら幅は六センチ、高さは九センチありませんでした。人間の赤ちゃんの頭よりも小さめです。顔は説明して下さった江口さんに似ていて細長で、耳もついていました。

江口さんの説明は続きます。

「八幡様そのものは由来は米山薬師からきてございます。かつて、歩いて米山登山した折には、旭の板山を経由して米山寺から米山をめざしたとお聞きしているところなんです。かつては大島もここで祭りをして、だいぶ賑わいをしたところなんです。そこに昔の名残の焼酎甕（しょうちゅうがめ）がございますけれども、ここで焼酎を飲み交わしてどんちゃん騒ぎをして、最後は盆踊りをして解散ということだったそうです。」

焼酎甕の説明のとき、熊田のTさんが「これだ」と指をさしておられました。お地蔵様がとても身近に感じられましたね。そして、お地蔵様の胴体にも会いたいのだと思いました。

この日は猛暑で、私は「あねさかぶり」で動きまわりました。帰りは、三竹沢のK子さんや石橋のY子さんなどと歩きながら、母の近況や母の実家のことなどを語りあい、下山しました。今度はみなさんと一緒に行野へも行ってみたいものです。

高田高校体操部の男子団体徒手国体8連覇などの映像鑑賞

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月9日(水)	9月16日(水)
上越南消防署	0.047	0.047
上越北消防署	0.047	0.047
新井消防署	0.043	0.047
頸北消防署	0.047	0.050
頸南消防署	0.060	0.050
東頸消防署	0.050	0.053
名立分遣所	0.050	0.053
高士分遣所	0.057	0.050

NPO法人頸城野ドキュメントライブラリーの特別上映会が13日、高田小町で行われました。

上映されたのは1957年(昭和32)5月17日午後9時頃に発生した新潟県立高田高校の火災、そして同校の体操部が国体の男子団体徒手体操で1949年(昭和24)から8連覇したときの記録です。いずれも8ミリ映像をデジタル化したものです。

私にとっては初めて見る映像で、よく記録、保存されていたのだと感心しました。上映後、元同校教員や生徒だった人たちから、「火災については下宿のラジオで知った」「火災時の残骸(の一部)は土中に埋められたが、その上に植えられた樹木は育たない」「国体で優勝したときは、高田駅前から凱進行進が行われた



が、高下駄をはいていて、高田高校へ入って良かったと思ったものだ」「(映像の)団体徒手演技は芝生の上で行われたが、前日に雨が降ってコンディションが悪かった」などの報告がありました。

会場には校友会の会長さんや現在の校長先生など関係者が何人もおられました。国体に出場された方も参加されて、スピーチしてくださいました。同期生やよく知っている先輩とも再会、久しぶりに交流できました。